

自省

今日は、懺悔のような内容で、私自身の反省を載せます。

本日、全校生徒にPTA新聞が配られました。これは、福岡県PTA連合会が発行しているものです。今回の表紙は「三行詩コンクール入賞入選作品」でした。なにげなく読んでみると、素敵な詩がたくさんありました。その中で、私自身が恥ずかしくなった詩がありましたので、ここで紹介します。

きついこと悔しいこと嬉しかったこと
なんでも受けとめることができる
母の別名、名キャッチャー



私事ですが、先日ちょっとしたことから娘とケンカになり、しばらく冷戦が続きました。娘は3ヶ月前に出産をし、日々育児と家事に奮闘しています。その生活を楽しつつ、ストレスもたまったり、イライラがすぐに処理できなかつたりする時もあります。

そのタイミングで、ちょっとしたことから父子ケンカとなりました。「私は悪くない。今回のケンカの原因は、明らかに娘だ」と私は思い、けっこう意固地になり、冷戦を続けました。

しかし、ちゃんと時が解決するようになっており、その後きちんと和解し、今は仲良くしています。

そんな中、今日、上記の詩に出会いました。これを読んで、とても自分が恥ずかしくなりました。

我が子も我が子なりに頑張っている中で、親が子どもと対等になってケンカをしているようでは、まだまだ親としては未成熟だと反省しました。親子の仲がよいからこそ、ケンカが起こることもあります。子を相手に同等となってケンカするのではなく、この詩のように、親として子の想いを受け止めることができる人間になりたいと思いました。